

広報広聴常任委員会

令和7年8月6日（水曜日）

開会 午前10時00分

閉会 午前11時55分

I. 調査事項

◎企画振興課

1. 森町公式ホームページの利用及び管理状況について

◎広報広聴常任委員会

2. まちかど議会カフェの充実促進について
3. その他

○出席委員（11名）

1 番 伊 藤 昇 君	2 番 河 野 文 彦 君
3 番 高 橋 邦 雄 君	5 番 山 田 誠 君
6 番 野 口 周 治 君	7 番 斉 藤 優 香 君
8 番 千 葉 圭 一 君	9 番 佐々木 修 君
1 2 番 東 隆 一 君	1 3 番 松 田 兼 宗 君
1 4 番 木 村 俊 広 君	

○欠席委員（2名）

4 番 河 野 淳 君	1 0 番 加 藤 進 君
-------------	---------------

○出席説明員

副 町 長	長 瀬 賢 一 君
企画振興課長	岩 井 一 桐 君
企画振興課参事	池 田 恵 太 君
企画振興課長補佐	阿 部 章 子 君
企画振興課 広報広聴係	近 江 彩 音 君

○職務のため出席した者の職氏名

事 務 局 長	関 孝 憲 君
議 事 係 長 兼 庶 務 係 長	長 谷 川 拓 哉 君

◎開会・開議の宣告

○委員長（斉藤優香君） すみません。多少遅れましたが、ただいまの出席委員数は10名です。定数に達しましたので、広報広聴常任委員会を開会いたします。

ただいまから本日の会議を開きます。

本日の会議日程は、お手元に配付のとおりであります。

◎森町公式ホームページの利用及び管理状況について

○委員長（斉藤優香君） 初めに、企画振興課関係の調査事項を行います。

森町公式ホームページの利用及び管理状況についてを議題とします。

岩井企画振興課長より資料説明を求めます。お願いします。

○企画振興課長（岩井一桐君） 皆さん、どうもお疲れさまです。企画振興課の岩井でございます。本日は、森町公式ホームページの利用及び管理状況ということで、資料について説明させていただきます。

それでは、2ページ目をお開きください。まず、おさらいにはなりますけれども、昨年度実施しました森町公式ホームページのリニューアルの目的でございますけれども、全ての情報端末、スマホですとかパソコンで同じ表示で見ることができて、なおかつ見やすく、容易な検索等を目指すことを目的にプロポーザルを実施したところであります。

プロポーザルにつきましては、当町の仕様の要件を満たしたノースディテールほか2社の3社でプロポーザルを行いまして、左側の概要・実績・方針から独自提案までの7項目を町職員で構成しております8人のプロポーザル委員で採点したところであります。その企画提案の中のアクセシビリティにつきましては、年齢、障がいの有無ですとか利用環境にかかわらず、誰もが容易に利用できることですとか、CMSにつきましては各課ウェブファーストを今現在進めているところでありまして、それと連動する形で専門知識があまりなくてもウェブサイトを効率的に管理、運用できる機能などについて企画提案していたところでもあります。

また、下から2番目のCMS加点につきましては、こちらは町から提示した先ほど申しましたCMSの機能要件について100点満点で採点した結果、ノースディテール社が総得点で849.5点と。900点満点中、最も高い得点でありました。

次のページでございます。落札業者は決まったのですが、金額につきましては今度は説明させていただきます。昨年度実施しましたリニューアルに係る費用につきましては、構築費用として964万円を支出してございます。そのうちの財源でありますけれども、半分を地域づくり総合交付金で賄っているところであります。

主なものについて、色づけしている部分について簡単にご説明させていただきます。まず、構築費用としてかかりました3番の本体サイト設計、こちらにつきましてはホームページのデザインですとか画面の見方等々についての金額でございます。あと、6点目のコ

コンテンツ移行につきましては、旧ホームページから新ホームページへの各種のデータ等の移動に係る費用でございます。

次のページでございます。先ほど来申しております11番のCMSの機能連携ということで、ラインですとかSNSとの連携についての金額でございます。総じて合計がノースディテール社、964万400円ということで、ほかの2社よりは一番高い結果とはなりましたが、一番下にあります運用保守5年分を加味した結果、一番安い結果となっております。合計と運用保守を合算しますと、ノースディテール社が1,459万、ほかのB社、C社に比べて300万以上安い結果となっております。

次のページでございます。利用状況ということで、新旧をちょっと比較した資料でございます。令和6年から令和7年の4月から7月18日までの比較でありますけれども、ページビュー数につきましては、大変ちょっとお恥ずかしい話ではあるのですが、リニューアル後、旧ホームページに森町スペース何とかで検索すると、ちょっとリンク切れですとか、そういったものが多くて、ノットファウンド、要は見つかりませんというのが2万5,000ビューございました。それは、真摯に受け止めて、今現在改善に向けて努力しているところであります。

続きまして、次のページです。次は、同様の期間で閲覧ユーザー数についての利用状況であります。旧ホームページ、新ホームページともに札幌圏からのアクセスが一番多く、町内については3,000ないし4,000程度の方から見ていただいております。また、ここに記載はございませんけれども、海外からも、アメリカ、ドイツ、台湾などからも見ていただいているような状況であります。昨年3.13万ユーザー、今年2.51万ユーザーと6,000ユーザーぐらい減ってはいるのですが、ちょっと要因を分析しましたところ、昨年のこの4月から7月の時期というのがホタテの学校給食の無料配付等々の影響もございまして、ふるさと納税が相当増加しておりました。ふるさと納税の4月から7月までの漁期の6年度と7年度を比較したところ、令和7年度で令和6年度に比べて6,000件ほど減ってございますので、そういった影響もあって、ふるさと納税のページの閲覧が昨年は相当多かったのかなというような分析でございます。

続きまして、次のページのユーザーの利用環境でございます。99%のユーザーは、スマートフォンとパソコンから見ておりまして、タブレットは1%にとどまっている状況であります。旧ホームページの課題でもありました、どうしてもパソコンベースで作っていたホームページですので、見づらいねというのが解消されて、新ホームページではそういったところもなく運用しているような状況であります。

続きまして、次のページでございます。新ホームページの管理運用体制でありますけれども、各課で記事を登載できる権限、アカウントを付与する上で全庁的な統一ルールと共通認識が必要不可欠であることを改めて感じているところであります。まず、森町公式ホームページ等管理運営要綱というのがございまして、企画振興課が、すみません。これ統括となっておりますけれども、総括管理者の誤りでございます。企画振興課が総括管理者

となりまして、管理運用ルールを作成したりですとか各課への指導、あと各課からの要望処理などを行っております。ルールの一例を挙げますと、各ページのどのカテゴリーに属するかといった分類記事の明確化ですとか、あと何クリック以内で目的にたどり着けるかというような階層の深さの統一だとか制限についてルールをつくっているところでありまして、それらを各課の管理者に対して理解してもらった上で、それぞれ実践していただきながら、なおかつ過去記事の整理もしてもらいつつ、掲載記事の作成について行っております。その結果をホームページに載せているところであります。基本的に管理運用体制につきましては、旧ホームページでも同じような体制ではありましたが、今回リニューアルに当たって見えてきた課題というのがテストの運用期間が非常に短くて、非常に課題がいろいろと散見しているような状況であります。

そのテスト運用期間が短くなった要因でございますけれども、当初プロポーザルの案内を4月上旬にしました結果、7社にご案内したのですけれども、できるというような業者が1件しかございませんでした。1件でプロポーザルをやるのもなということで、再度当町の仕様を見直して、それがどうしても役所内の仕事ですので、手続等に時間がかかりまして、6月の中旬に2回目のプロポーザルの案内をしたところ、3社から参加していただけるというような返事をいただいたところで、まずそこで2か月ずれております、当初の予定よりも。なおかつ、そのテスト運用期間を当初3月の頭からの1か月を予定しておったのですけれども、これも森町のホームページをアップするサーバーとの兼ね合い等によりまして、すぐすぐ上げることができませんで、テスト運用期間が実質1週間程度しかない中で、ちょっと見切り発車といいますか、そういったところになって進まざるを得ない状況となりまして課題が散見されているというような状況でございます。

次のページでありますけれども、その課題と対処について今現在行っていることになるのですけれども、ちょっと言い訳にはなりますけれども、転換期のため、各種課題はあるとは非常に認識しております。そういった中でも、やはりよりよいホームページを目指して現在進行形で改善に取り組んでいるところであります。課題点といたしまして、利用者目線でありますけれども、検索しても記事が見当たらない、ノットファウンド、またサイト内も整理、統一されていない、リンク切れですとか、そういったことが非常に利用者目線としては課題となっております。また、SNSですとか、イベントカレンダーという機能もありますけれども、それもまだうまく活用し切れていないというのが課題として当課で認識しております。

また、管理運用面につきましては、カテゴリーを増やして、いろんなところから階層を浅くしてアクセスしやすくしたのではあるのですけれども、リンクですとか動線が不十分でなかなか記事にたどり着きづらいというような状況があります。また、各課に対してルールが浸透しておりませんで、必要不可欠な認識ですとか対応がちょっと今まだ整理し切れていない状況でございます。

それらに対しまして、今現在当課で行っている状況でありますけれども、対処といたし

ましては、どうしても移行することによってインターネットの性質上、当初3か月ぐらいはどうしても古いホームページ、検索しても古いホームページのほうを探してしまうというような習性があるようで、それについては時間の経過とともにノットファウンドは大部分消えてくるだろうということで確認しております。なおかつ、それでも消えないものですか、そういったものに対しては、こちら側から例えばグーグルさんにその記事を消してだとかというようなお願いをしながら、その点の改善に今努めているところであります。また、適切なカテゴリー整理ですとか記事の配置について、うちの担当者が各課といろいろ協議しながら現在進めているところであります。

最後になりますけれども、現状今こういった状況にありまして、日々運用しながらアップデートを継続実施している最中ということでございますけれども、なるべく早い段階でよりよいものにしていきたいと考えております。

最後になりますけれども、やはり必要とされるホームページを目指して、これからも日々精進してまいりたいと思います。

資料の説明については以上です。

○委員長（斉藤優香君） ありがとうございます。

ただいまの説明について質疑ございましたら、どうぞ、挙手でお願いします。

○企画振興課長（岩井一桐君） すみません。1点、先ほどの課題で挙げましたものをちょっと実際画面に映して説明したいと思います。

○企画振興課広報広聴係（近江彩音君） すみません。お待たせいたしました。ホームページの主な課題として、ちょっとこちらで確認していたものなのですが、例えば今ちょっともう改善してしまっているのですが、例えばこの子育て施設というカテゴリーから見たときに、現状2つの記事しか入っていないというところがありまして、これは担当課のほうにももうちょっと記事を充実させるようにというところと、あと例えばこの記事を開いたときに皆さんが思う保育所、保育園一覧というのは……すみません。こちらでも改善されていきましたね。本当はマップ一覧しか入っていなかったのですが、ちょっと担当課のほうに相談しまして、こういったちょっと一覧をきちっと記事の中でまず充実させて、それからマップを載せてということでちょっと案内をさせていただいたところでございます。

もともとは、この子育て施設というカテゴリーが子育て教育から入ったときの子育て施設には2個記事が入っていて、この組織一覧から例えば子育て関係で保健福祉課かなと思って見る人がいたときに、同じく子育て施設というところを開くと、こっちには令和5年度の事業評価の実施結果の記事しか入っていないくて、こちらは同じようなジャンルのカテゴリーであるのにもかかわらず、あっちにはこの記事が入っていて、こっちにはこの記事が入っていないくてというようなちょっとちぐはぐな環境となっておりましたので、これを当課としても日々確認をしながら、それこそパトロールのようなことをしながら、そういったものがあれば是正をするようにということで各課に指導をしているところでございま

す。

もう一個、その動線の確保というところで今実際に実施できた部分としましては、まずはヒグマ出没情報というのが今までは探しに行かないと、もっと深いところにありましたので、分からないところにあったのですが、このようにピックアップだとかということでは、バナーをつけてあげることで防災無線が流れたときだとかにも迅速に情報を見つけ出しやすい環境をつくることを意識しておりまして、もう一つはこの広報もりまちを開いたときに、今はこのように7年度の一覧はこちらからというようなリンクをつけているのですが、当初はこのリンクがなくて、8月号を見た人が、ではもっと前の広報を見たいとなったときに、どこからたどれるものなのかが分からないというようなことが想定されましたので、8月号を見た人は多分、前の年度というか、本年度の一覧を見たいのではないかという推測の下、まずこちらのリンクを設定しまして、遷移すると一覧はこちら、7年度の一覧はこちらからということで一覧ページに遷移できるようになっておりまして、その次に7年度の一覧を見た人は、もっと過去の分をさかのぼりたいのではないかとということまで考えをめぐらせて、過去の広報もりまち一覧はこちらということで、それこそ誘導をしてあげるような動線確保を意識しております。

こういったものは、まず気づいたところから動線確保をしているのですが、例えば防災、救急を見たときにヒグマの出没情報に派生させたりだとか、消防一覧、消防からのお知らせ一覧をちょっと追加してあげるということで、閲覧者に手段を増やしてあげるということを意識して取り組んでいるところでございます。

説明は以上となります。

○委員長（斉藤優香君） それでは、今までのこの中で質疑のある方いらっしゃいますか。

○委員（千葉圭一君） すみません。この操作で、私は森町の条例とか、そういったものを調べるのにすごい手間暇かかって、結局たどり着けなかったのですが、今現在どうなっていますでしょうか。

○委員長（斉藤優香君） 皆さん、ホームページは開けていますか。今もし……

○委員（千葉圭一君） 私は入れていないから。

○委員長（斉藤優香君） 入れていなくても開けますか。

（何事か言う者あり）

○企画振興課広報広聴係（近江彩音君） 下のほうにずっと下がることにはなるのですが、ここに条例・規則・要綱というアイコンが……

（何事か言う者あり）

○企画振興課広報広聴係（近江彩音君） まず、トップページを開いていただきましたら、すみません。ちょっとぐっと下のほうに下がっていくのですが、ちょっと一番下のほうに条例・規則・要綱というアイコンがございまして……

○企画振興課長（岩井一桐君） 森町議会の下です。

○企画振興課広報広聴係（近江彩音君） こちらを開くと……

(何事か言う者あり)

○企画振興課広報広聴係(近江彩音君) この例規集が別サイトとのひもづけになりますので、外部リンクで開くことになりまして、この中から森町をちょっと見ていただくと…

(何事か言う者あり)

○企画振興課広報広聴係(近江彩音君) そうすると、例規集が……

○委員(千葉圭一君) これが例規集になるの。

○企画振興課広報広聴係(近江彩音君) そうですね。これは、ほかの自治体とかでも採用されている一般的な例規集のサイトということ。

(何事か言う者あり)

○委員(千葉圭一君) ありがとうございます。

(何事か言う者あり)

○企画振興課長(岩井一桐君) どうしても北海道町村会のホームページに飛ぶようにしていますので。

○委員(千葉圭一君) 前からそうだったら申し訳ありませんけれども、すみません。ありがとうございます。

○委員長(斉藤優香君) あとはいかがでしょうか。

○委員(野口周治君) 今導入して、展開して途中であると理解をしました。それで、こういうことをやるときって目標値とタイミングを決めて、その到達度という測り方をすると思うのです。こういう不具合がありますではなくて、定性的になりますけれども、こういうことまではできるようになっている。例えば全体で10の組織があるとすれば、9つまでは合格点にきているような物差しをつくる。その物差しに向けて仕事は進めて評価しないと、できるところをかじるような仕事になりますよね。そういう尺度あるいはプロジェクトのマネジメントなのですけれども、がやられているかどうか。どういうふうにやっているか教えてください。

○企画振興課長(岩井一桐君) お答えいたします。

今現在、うちの担当の近江が中心になって、やはりパトロールではないですけども、各ページいろいろありますので、それを一つずつ見ていきながら不具合を探して潰していきつつ、なおかつ各課にも集まってもらって、各課で共通認識を持ってもらって統一したものに今していこうとしている最中でございます。ちょっとまだ到達点というのが明確にいつというのは定まっておりませんけれども、極力早い段階でよりよいきちんとしたものにしていきたいなという考えはございます。ただ、その到達点につきましてもただらととするのではなくて、やはりある程度期限を決めてというような思いではあります。

以上です。

○委員(野口周治君) 今の答弁そのものを想定しての質問なのですが、分かってもらえますか。やっています、もちろんやらなければいけないし、やっていることは貴い

のです。だけれども、仕事というのは目標値があって、そこにどうやって届くかという面がもう一面ですよ。ランニング、走っている人はそれでいいのです。そうではなくて、動かしている側は、どこに届くのかを持って、そこに向けたマネジメントが必要でしょう。それがやれていますかと。その数値化でも行動化でも何でもいいのです。そういうツールを持ってやらないと、頑張っってね、頑張っっています、うん、よしみたいな話になって、まだありますけれども、大分よくなりましたという何かよく分からない説明を繰り返すのです。それは、お金を使ってやっている以上、駄目だと私は思うので、そのツールが必要ではないですか、そういう組立てが必要ではないですかと。一度にはできなくてもしょうがないけれども、そういう考え方、その組立てが必要ではありませんか、どうですかという、そういう質問としてお答えください。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

野口委員ご指摘のとおり、ちょっと今現在当課としてそこまでのものは持ってございません。ただ、おっしゃられるようにやはりある程度きちんとしたものを作っていく上で公費も投入しているわけですから、そういったものは今後課内で検討して、体制等々を含めて進めてまいりたいと思います。

以上です。

○委員（野口周治君） そういうことのためにIT専門の人に来てもらっているわけですよ。行政関係のITかもしれませんけれども、そういう専門家も今庁舎内にいるわけだから、そういう知恵、別にその個人のことを言うのではないですよ。そういう自分たちが、分からない人が考えてもやっぱり分からないのです。勉強してからって、遅くなるのです。苦労が増えるだけです。そういうことって、よく知っている人に尺度をどうしたらいいのだろう、プロジェクトマネジメントをどうしたらいいのだろうと相談をして、早くツールを手に入れることは結局楽ができるはずなので、そういうふうに進めるほうがいいと思いませんか。どうですか。

○企画振興課長（岩井一桐君） 野口委員ご指摘のとおりでございます。そういったうまく、言葉は悪いですけども、使えるものを使って、うちの協力隊もホームページに明るい者もおりますので、そういったものの知見なども借りながら進めてまいりたいと思います。

以上です。

○委員（河野文彦君） 今回リニューアルしたということで、個人的な意見になると思うのですけれども、まずセンスない。見にくい。使いにくい。リンク切れが多過ぎる。それは、大分改善されたと言うのだけれども、あと高い、値段がって僕は思っって見ていました。今までのホームページは、大分期間もあって、いろいろ改良されて熟成されていたというのもあって、どこかのタイミングでリニューアルしなければ、する必要があったのかどうかは別として、リニューアルするということでしたので、見慣れたものから変わって、見にくいよねという意見は絶対出ると思うのです。僕もその一人かもしれないけれども、で

もそれにしても、もうちょっとセンスよくてもいいのではないかな。だって、はっきり言って、厳しく言うよ。自分も一応学問としてHTMLもデータベースも習ってきた人間とすると高校生レベルだね。特にデザイン、商業高校の情報学部の生徒さんでも作るよ、これぐらいという僕は過大評価をします。ただ、これが100万ですよ、200万ですよだったら分かるの、まだ。1,000万でしょう、やや。そのバランスがちょっと悪いな思っただけで見ていました。

リンク切れ、最初の頃ひどかったね。僕も見えていて、よくこれで金取るなってぐらいな思いで見えていたのですけれども、大分よくなってきたのは分かっています。今朝もこの委員会あるということで、かなりチェックしてきました。でも、僕が今朝かなり見た限りだとリンク切れ見つからなかった。今朝あら探ししたのだけれども、あえてあら探ししてきたのだけれども、なかったです。なので、大分よくなってきたのかなと。ただ、納品するときに、新着情報とかは別だけれども、既存の……全部作り直したのかな。エラーチェック、リンク切れしてくるのは業者の仕事ですから、それをそんな状態で納品すること自体が僕はどうなのかなと。ましてや、それ納品検査もしているわけでしょう。なので、その辺をしっかりと、ましてやこんな高額なお金で作ってもらっているのだから、その辺ももっとしっかりとやってほしいなというふうに思っただけで見ていました。ただ、過渡期ですから、今は新しいページの。だから、今後いいものにしていけばいいのではないかなと思います。前回の古いやつだって、僕はもう熟成されているなと思っていたので、あまり悪くは言った記憶ないです、今まで広報でも。ですけれども、今回はちょっと、スタートのタイミングだから、厳しく言えばそんな感想を持っていました。どう思われますか。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

確かに1,000万というお金をかけて不具合が大分収まってきたとはいえ頻出してしまったということは非常に反省すべき点でありますし、次回改善、更新する際にはこういうことは当然あってはならないと考えております。

金額につきましては、割と1,000万、高額ではありますけれども、これも私たちの感覚なのでしょうけれども、割と今の時代としては妥当かなというところの金額提示だったかなというような認識であります。

また、デザイン面につきましては見慣れている、見慣れていない等々もありますし、またホームページは大体5年ごとに更新するというのがおおむねそういった流れの中でも、うちで言う和二昔前のホームページだったものを今若い女性の視点でこういったものに作り変えたというところで、こうすることによってスマホでの視認性も高まっていますしというところで、デザインに関しては我々はこれで一定程度評価しているところでもあります。直すべきところは当然直して、よりよいものにしていくというのは、そこは皆さんの認識と同じゴール地点だと考えておりますので、温かい目で見てもらえればと思います。

以上です。

○委員（河野文彦君） 課長、若い女性の視点でというキーワードが出ていたのだけれど

も、例えば今のでいくと、どの辺がやっぱり私たちおやじ世代には思いつかないなというような若い視点が入っていたのか、まず紹介してもらえればうれしいな。

○企画振興課長（岩井一桐君） おじさん目線で言うと、まずこのピンクってなかなかあまりないかなというような。あとは、こういう部分ですとか、うまくアイコンなどを使って工夫はしていると考えております。

以上です。

○委員（河野文彦君） あと、どうなのだろう。職員の中で、これぐらい作れる人いっぱいいるでしょう、はっきり言って。いるのではない、これぐらいだったら。いると思うよ、多分。多分職員の中でも、いやいや、これかよと思っている人いるのではないかなと思う。ぱっと見ていて、僕も例えば防災無線との連携とかというのは、どういうシステム上なっているのか分からないから想像もつかないのだけれども、後のことは大体タグ書ける人だったらできるよ、これぐらい。更新だって自分たちでやっているわけでしょう。なので、今回はもう終わってしまったけれども、今後別に職員でできることは職員でやっていいのではないかなと思いますよ。それぐらい逆にスキルある人が1人ぐらいいないとねと僕は思っていました。だって、情報担当って専門の人までいるわけでしょう。だったら、これぐらい作れないと。そのほうが本当に使う人の目線で作ることになると思いますけれども、納品されたものをぼんと受け取るだけではなく。というふうに、今後のそういうふうになっていけばいいなという希望も含めてどうですか。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

以前いた、退職されたような職員がいれば、そういった方に頼んでやってもらうこともできると思うのですが、今現在そういった、そこまで精通した者おりませんので、今後の検討課題としてDX推進係とも連携しながら、ちょっと今後の検討課題とさせていただきます。

以上です。

○委員（伊藤 昇君） すみません。7ページの管理運用体制でちょっと聞きたいのですが、各課の管理者って、こう書いていますよね、真ん中にね。この方がどなたなのかというのと、それから一番下に掲載記事の作成など、こうあるのですが、これって一体誰が管理して、確認をして掲載をしていくのか。1回出してしまったら、行政情報ですから、ああ、間違えましたというだけで済まないことになってしまう。ですから、例えば……そこの部分をまず1回聞いて、誰が管理者なのか。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

各課の管理者は各課長となっておりまして、各係長、係員が作成したものをチェックして管理している状況になります。

○委員（伊藤 昇君） 普通担当者だとか、係だとか、係長さんが掲載記事についてはガラを作る。そして、上に上げていって、そして掲載していいかどうかというのを確認、管理者がする、こういう流れだと思うのです。

最近ちょっといろんなことを聞きますと、勝手にやっちゃっている状況にもあるわけですが、森町役場の場合には。後から間違えましたということが往々にしてあったりするものですから、その辺り役場の体制として、統括管理者は企画ですけれども、その上にやっぱり責任者はいるわけですから、行政情報を間違えました、それがかなりなことになるば取り返しのつかないことになってしまうので、その辺りもっとその体制というか、記事をアップするに当たってどのようにしているか、もう一回ちょっと聞きたいなと思います。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

課内の流れとしては、記事の作成から管理者までの流れにつきましては伊藤委員おっしゃるような流れで行っておりまして、当然その重要度といいますか、によっては副町長、町長の決裁を経た上でホームページへ各課の権限で今現在掲載しているところであります。中には企画課に合議に来るものもあれば、その中で我々もチェックしながら内容の精査はしているところでもあります。

以上です。

○委員長（斉藤優香君） あとご意見のある方、質問のある方いらっしゃいませんか。大丈夫ですか。

○委員（野口周治君） 物すごい細かい、例えばですけれども、防災無線で流れたもの、どこから探したらいいのですか。

○企画振興課広報広聴係（近江彩音君） 防災無線で流れたものは、ここに、お役立ち情報の中に防災無線放送分という……

○委員（野口周治君） お役立ち情報、ちょっともう一度最初から。

○企画振興課広報広聴係（近江彩音君） すみません。トップページを開いたときに、少し下に遷移するとお役立ち情報というエリアが設けられておりまして、この中に防災無線放送分という独立したアイコンを設けさせていただいております。こちらを開くと、今まで流れた防災無線が一覧になっておりまして、ある程度のところでは表示は切れるようになっているのですけれども、直近のものは上から順番に見られるようになっております。

以上です。

○委員（野口周治君） 同じところに行きたいときに、お役立ち情報以外のアクセスは、ルート、動線、どこにあるのですか。

○企画振興課広報広聴係（近江彩音君） になると、お役立ち情報以外から行くとすれば、皆さん次に行きやすいのは新着情報から、基本的に防災無線で流れたと同時にホームページも更新されるようになっておりますので、新着情報から拾うか、または今回はレイアウトがちょっと大きく変わりました、サイト内検索が上に上がってきましたので、皆さんダイレクトに検索をして、今の例えばこういうふうに防災無線となったときに、ここでダイレクトにアクセスされるということが多くなってきているかなと思っております。

以上です。

○委員（千葉圭一君） 要望なのですけれども、こういう使い方って説明を聞く私たちは、

ああ、なるほどだと分かるのですけれども、ふだんの町民の方々がこれを、なかなか機会がない人があると思うのです、持っていて、スマホでも。そういったときに、集合体とか、そういった人方を集めてこういうことをやってほしい、説明してほしいといったら、やっていただけるような体制ってあるのでしょうか。

（「ホームページ勉強会みたいな」の声あり）

○委員（千葉圭一君）　そうそう、勉強会みたいな、説明会みたいな。

○企画振興課長（岩井一桐君）　お答えいたします。

今のところ、そこまでの予定はありませんけれども、あと総務課で行っておりますスマホの個別相談会とかというのがありますので、そういったものと連携しながらやっていくのがまず最短かなとは思っています。

以上です。

○委員（千葉圭一君）　すみません。もう一度同じ質問なのですが、何か固定した人方だけが、ふだん見ている人方だけが何か使えるようなものでどんどん展開していても、新たにこういうふうに変ったとか、こういうふうにやったら見やすくなったよとか、探すときはこういうふうに見たほうが楽だよとか、そういったものが説明を聞かないと分からない方々って結構いると思うのです。そういった人方のために説明会というのを企画するという検討をしていただけないのかなというふうに思いました。

○企画振興課長（岩井一桐君）　そういった要望があれば、前向きに検討していきたいなとは思いますが、ということになります。

○委員長（斉藤優香君）　今回リニューアルされたのですが、このホームページ等の管理運営要綱は令和元年に改正されて運用されていると思うのですが、この森町情報化推進委員会というのを設置されていると思うのですが、それはこのホームページをリニューアルするに当たって何か委員会を開いたりとか、情報をいただいたりとかという、でき上がったときのご意見とかというのはいただいていたのかということと、あともう一つ、森町ホームページ作成に関するガイドラインというのがあるのですが、これが平成27年改正のままなので、このガイドラインにのっとってこのホームページは作られたということになるのかということをお願いします。

○企画振興課長（岩井一桐君）　お答えいたします。

まず、1点目のホームページ等管理会議でございますけれども、今回のリニューアルに当たっては開催してございません。どちらかと言いますと、広報広聴常任委員会を経て皆様からいただいたご意見を各課に振るというような今現在の組織体制であります。

また、ガイドラインにつきましては平成27年以降改正しておりませんので、基本的にはそれをベースに今回リニューアルしたというようなことでございます。

以上です。

○委員長（斉藤優香君）　この森町情報化推進委員会というのは、今でも組織としてある。活動はされて……副町長が委員長で。お願いします。

○副町長（長瀬賢一君） お答えします。

情報化推進委員会自体は実際ありまして、私が委員長になっているのですけれども、本年度も6月だったかな。そのぐらいの時期に1度会議、開催されております。また、ちょっとホームページの運営の関係のメンバーとダブっているのですけれども、それはホームページはホームページ、情報化推進委員会は情報化推進委員会という組織になっていまして、そのときには今情報システムの標準化ですとか共通化、庁舎内で進めているのですけれども、そういったことの進捗状況ですとか、あとテレワークについてだとか、あとセキュリティ対策、あと、生成AIを活用していきましょうといった内容で1度、今年度は1度実施してございます。

以上です。

○委員（松田兼宗君） 何点か。ちょっとやり方が分からないなと思って。多言語から例えば英語に入っていって、日本語に戻れないのだけれども。それと、スマホの画面に変えた時点で、普通のPC用の画面に切り替えることができないのだけれども、何だろう。

それと、もう一つ、要するに文字がすごく見づらい。書体の問題なのか、それと書体を変えれば少しよくなるのではないのと思ったり、それとアイコンの問題で、アイコンの全部同じ色の黒のアイコンを使っているのだけれども、色を変えるとか、何か工夫したほうがもっと画面上では見やすくなるのかなというふうに、その人の感覚もあるから、何とも一概には言えないのだろうけれども、その辺どうなのでしょう。

それと、いろんな見ていて不具合があったり、それに対する問合せというか、町側に、このサイトの管理者に対してのお知らせとかという、出せる仕組みというかな。ただ、普通は見ていて、あれ、変だよ、それで終わってしまうのだけれども、特に職員の人とか、そういういろんな形で見ていて、ちょっとおかしいよね、ここねというような部分があったことに対して、一般の人でもいいのだけれども、お知らせする部分というのはメールしか普通はないはずなのだ。お問合せの部分のを、ここをもう少し簡略化したほうがいいのではないの、入力ホームって。ここまで名前とか必須とか、そういう問題ではない部分だっていっぱいあるのだと思うのです。簡単な不具合があるのを知らせる仕組みというのは必要なのではないのと。最初立ち上げるときは、特に必要だと思うのだけれども、その辺どう思いますか。

○企画振興課広報聴係（近江彩音君） お答えします。

まず、言語設定の部分は、確かに例えばイングリッシュを選んだときに、ちょっとジャパニーズという選択肢がないので、こちらはちょっと早急に保守業者のほうに再度確認しまして手段を確保したいと思います。現状、ちょっと日本語に戻すためには再度アクセスし直すというところが必要になってきますので、こちらは言語選択の中にまた日本語に戻れるような選択肢を戻したいと思います。

また、スマホからのホームページPC版、実は今回レスポンシブデザインというのを採用しておりまして、デバイスの幅によって表示が変わる、変わらないというのがあるので

すけれども、パソコン版で開いたときにもスマホと同じ比率で画面の大きさを変更すると、スマホ版と同じ閲覧ができるようになっておりまして、この今画面に表示されているのはスマホ版と同じ表示画面になっているのですけれども、閲覧支援の中にPC版で表示するというものが入っています。ただ、やっぱり初見だと分からないというところが課題としてはありますので、ちょっと今のご意見を真摯に受け止めたいと思います。

私からは以上となります。

○企画振興課長（岩井一桐君） あと、文字につきましては、やはり今のユニバーサルデザインフォント、誰でもちゃんと見れるようなものを当然採用した中でやっておりまして、見やすい、見にくいというのは多少あるとは思いますが、そういったフォントを使用している状況であります。

また、ホームページの不具合、こういうところあるのだよというような問合せフォームではないですけれども、そういったものも現在のホームページに加味できるかどうか保守業者と協議しながらちょっと検討していきたいと思っています。

あと、そんなところだったでしょうか。

○委員（松田兼宗君） もう一点、アイコンの問題。アイコンが全部同じ色なのですよね。例えば、ちょっと何でもいい。どこか開いて、防災でも教育でも何でもちょっと開いてくれるといいのだけれども、その下のところ、全部の文字のところにアイコンがついているでしょう。その色を変えたほうがいいのかと思いながら、そのほうが見やすくなって、全部黒のアイコン、同じ色のアイコンを使っているから、文字ばかりだったらすごく見づらいのです、書体の問題なのかなと思いながら。細いゴシック系のあれを使っているのだらうけれども、書体をもう少し変えたらもっと見やすくなるのかなと思ったり、色をつけたほうがいいのかと思ったりもしていたのだけれども、その辺どうなのかという話です。

○企画振興課広報広聴係（近江彩音君） お答えします。

一応、字体については明朝体とゴシック体が選択肢としてあったのですけれども、一般的にホームページだとかに適用されるのはゴシック体のほうが見やすいということで保守業者からもちょっとご意見をいただきまして、一般的にオーソドックスな字体を用いらせていただいているところでして、アイコンの表記については、ちょっと色の選択肢というのが、まだそこまで話が出てこなかったのが、業者から示されるテンプレートというか、標準仕様のものをそのままアイコンとして利用しているところがございます。一応、アイコンも2種類ありまして、こっちのこの書類のようなアイコンは記事ページになります。一枚物の記事ページのアイコンになっておりまして、このピンク色のフォルダのようなアイコンはカテゴリーのフォルダになりますので、例えばここに入っていくと、さらにこの各選挙の結果という箱の中に入っている記事一覧が出てくるということになっておりまして、一応アイコンの使い分け自体はあるのですけれども、ちょっと色とかの検討については検討事項の一つとして受け止めさせていただきます。

以上です。

○委員（松田兼宗君） 検討するのはいいのだけれども、見やすいものにどう変えたいのかという工夫をしてほしいということなのです、要するに。文字だけなら、例えば文字の項目の中に２段になっているのがあるでしょう。２列に並べているから、２段になってしまうのです、文字数が多いから。そうすれば、すごく見づらいの。だから、それを見やすいようにするにはどうしたらいいのかを工夫してくださいという要望です。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

どうしてもシステムの問題もありますので、できる、できないはありますけれども、日本広報協会などでホームページで受賞されている町などを見ながら、改善できるものから改善していくような体制を今後進めていきたいと思います。

以上です。アイコンを含めて。

○委員（松田兼宗君） だから、いろんな賞をもらったとか、そういうのはいいのだけれども、それは専門家が見る画面でしかないの、一般の人がどう見るかが問題なのだと思います。森の町民がどう思うかという問題、そしてほかの町の人から見て、どういうホームページだと思われるかという問題なのです。プロの人間の目ではないのです。その辺を考慮したほうがいいのではないですかということなのです。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

松田委員のおっしゃることも含めて、どういった見せ方が一番町民なり町外からの人にとって最善、ベストはできないかもしれませんが、ベターな状態に持っていけるように、ある程度の人が見ても、ああ、ちゃんと見えるねというようなものを着地地点、ゴールとして持っていきたいと考えておりますので、ちょっと引き続き検討させていただきたいと思います。

以上です。

○委員（野口周治君） 補足質問のつもりです。これ字体はユニバーサルデザイン、UDフォントを使っている。それから、ピクトグラムも標準的なものを使われていると思うのですが、独自デザインではないと思うのですが、どうですか。例えば救急、防災、入札、ごみとありますよね、これピクトグラム。要は、一般的に認められている水準のものを採用するのが私は基本だと思っていて、そこから先どうするかは工夫なのですけれども、そういう水準に来ているのかどうかという、今の松田委員の質問を私なりの視点でもう一度尋ねようとしているのです。ピクトグラムと、もう一つは文字の大きさ、視力の弱い方、見るのがつらい人は、小さい文字は見にくいですね。そういうことからすると、加減があるはずなのです。その辺りは、これ以上の大きさでなければならないという規制になっているのかどうか、３つお願いします。

○企画振興課広報聴係（近江彩音君） お答えします。

まず、文字のフォントの関係についてはUDフォントを採用させていただいております、次にアイコンなどに用いられている画像については、ちょっとそういった水準に達し

ているかどうかというのは、今はちょっとお答えができませんのですけれども、一応そこを判断する基準としてはアクセシビリティという部分で、見る人にとって全ての人が等しく情報を取れるということが大前提になっておりますので、そこはまず配慮はされているものとして認識しております。

もう一つは、文字の大きさの加減だとか、そういったところの配慮についてはCMSという、コンテンツ・マネジメント・システムというのですけれども、ホームページ作成の過程でまずアクセシビリティチェックの機能が備わっておりますので、何か適さない表示だとか、適さない方法が用いられているものに対してはチェックが入るようにシステムの中に組み込まれております。一応この閲覧支援の中で音声読み上げなども使えるようになっておりますので、例えば目が見えない方、本当に色覚だとか視覚にハンデがある方に対しても同じく等しい情報が得られるような機能を備えているところでして、文字サイズも標準または拡大というものもありますので、そういった自分でそういうツールを持っていない方に対しても対応ができるように備わっているところでございます。

以上です。

○委員（千葉圭一君） 最後の質問になってしまうのですけれども、すみません。ページの5ページ、資料の5ページを見ていただきたいのですけれども、これ利用者数、閲覧ユーザー数って書いていますよね。森町町内は4,000前後って書いてありますよね。4,000前後というのは、多いと感じているのですか、少ないと感じているのですか。要するにこのホームページって、結構町内向けのものが多いののですけれども、4,000前後というのは4,000人のユーザーの方々が閲覧したということですよ。それを多いと感じているのか、少ないと感じているのか。目標は、少なくとも今1万2,000ちょっといるとしたら、6,000を目指すのか、8,000を目指すのか。構成人数は落ちていきますよね、同じ市町間でも。ということは、せっかく作ったのに町内の人方に見てもらえないと何の役にも立ちませんよね、このホームページ。この狙いをどういうふうに持っていくのかというのを聞きたいのです。それで私、説明会等も含めて、そういうことも考えてみてもらえないでしょうかというお話をさせていただいたのですけれども、いかがでしょうか。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

ユーザー数につきましては、大体過去3年ぐらいはこの期間同数で推移してきてございます。たくさんの方に閲覧していただきたい思いはありますけれども、やはり見たい人は情報を自ら取りに行くというのがホームページだと思うのです、SNSと違って。その辺で目標値といいますか、話題があれば当然閲覧者数も増えるでしょうし、だからといって目標を設定するのも今は何ともちょっとお答えしづらい状況ではありますけれども、ホームページとはそういうものかなというような、情報を欲しい方が取りに行くものというような私は認識しております。

以上です。

○委員長（斉藤優香君） よろしいですか。皆さん3回以上なので、聞きたいことがあれ

ば聞いたほうがいいと思います。

○委員（千葉圭一君） おっしゃっていることは、よく分かります。情報の欲しい人が閲覧、見に行くというのが、それは分かります。でも、情報を見たい、知りたくても、それが分からない人に対しては誰がどう教えるのですかという話なのです。知らないのだから、知らないのはあなたが悪いというふうに聞こえるのです。知りたくても、それを入手できない、やり方が分からない。だから、人に聞いたり、電話で問合せしたり。そういう作業をもし持っている人がいるのであれば、できる人がいるのであれば、それを教えるということはないのですか。そのためにこの比較する人数、町内のユーザー数が4,000前後というのがずっと推移しているからいいという判断であれば、それはそれでいいのですけれども、いや、もう少し、もっと閲覧をしていただきたい、町内の人にいただきたいというのであれば、こういう活動をちょっと考えていますとかという、そういったことをお聞きしたいなというふうに思ったものですから、4,000というのは妥当なのですか、多いのですか、少ないのですかとお聞きしたのですが、いかがでしょうか。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

その4,000が妥当かどうかというところは、この間の推移を見ますと先ほども言いましたけれども、4,000程度で推移してきていると。町のほうから勉強会なりをやらないのかというようなご質問かと思うのですけれども、先ほどお答えしましたけれども、要望があればというところでお答えしたのですけれども、やはり自ら見ていただいて慣れて、ここに何が入っていると覚えることのほうも、行って説明して、そのときは分かったのけれども、帰ってからやったら分からなくなったとかということもあろうかと思しますので、まずはやはり自分で創意工夫して調べていただくということも必要なかなと考えています。

以上です。

○委員（松田兼宗君） 今の話でちょっと前から思っていることなのだけれども、スマホの講習会とかやっていますよね。そのときに、森町のホームページを見るのに、見てほしいという意向があるなら、どういう方法をやりますか。私は、簡単な方法は要するにショートカットをつくってやればいいだけの話なのではないですか。何か森のホームページを見たいなら、このボタンを押してくれば直接行きますというボタンをつくってやるだけです。そうすれば、アクセス数が増えるのです。それをやっていないのではないですか、そもそも。ただ、こういうふうに使える、使ってくださいと言うだけで、実際にそれぞれ、ほとんどの人が森のホームページなんて見ることがないはずなのです。とすれば、ショートカットをつくってやること、それだけです。それでアクセスも増えますよ。そういうことをやっているかどうかを知りたいのですが。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

今回の構築に当たりまして、ライン連携というものを新たに設定してございます。その中からホームページに飛ぶような仕組みにはなっておりますけれども、まずライン自体が

うまくまだ正直なところ機能しておりませんで、そういったものも全て、所管の問題等もございすけれども、整理された上でラインの画面を、システムをちゃんと構築できるようになった際には広報紙等々でラインからも森町公式ホームページに飛べますよというようなアナウンスを広報紙等々を通じて広めて閲覧者数の増加にも努めてまいりたいと考えています。

以上です。

○委員長（斉藤優香君） ほかはよろしいでしょうか。

○委員（野口周治君） 先ほどの千葉委員の質問を言い替えます。過去と比べてこうだという説明もあるのですけれども、同規模の市町村、町と比べて、ではどうですかと、そういう尺度もあると思うのです。要は、皆さんこのくらいは使われているよねと。そういう物差しで見たときにどうかという評価もあるのですけれども、それはやられていますか。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

現在は行っておりません。

以上です。

○委員（野口周治君） やってみたいかがですか。私は、件数が多いのがいいというふうに考えているのではないのです。というのは、目的はおっしゃるとおり検索の入り口であるだろうと。ただ、何となく興味を持つ人もいるでしょう。そういう人も含めて、もう少し広く捉えたときに、外からどれぐらいアクセスがあるのかという視点は必要だと思うので、そういう物差しで見てみて、ああ、全然普通なのだななのか、何か異常に少ないねなのか、そういうことは念頭に置いて政策は考えるべきだと思うから、お尋ねしているのです。お願いします。

○企画振興課長（岩井一桐君） お答えいたします。

まさにおっしゃるとおりだなと思いますので、同規模の自治体等々、あと近隣町を含めて分析しながら、うちの町の結果について検討といいますか、課題などもしあれば、そういったところも進めてまいりたいと思います。

以上です。

○委員長（斉藤優香君） よろしいでしょうか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（斉藤優香君） なければ、森町公式ホームページ利用及び管理状況についてを終わります。

説明員の方は退席されて結構です。どうもありがとうございました。

次に、議会側の広報広聴常任委員会の関係の調査事項を行います。10分間休憩いたしますので、20分から始めます。

休憩 午前11時07分

再開 午前11時17分

○委員長（斉藤優香君） 時間早いのですけれども、皆さんそろいましたので。

◎まちかど議会カフェの充実促進について

○委員長（斉藤優香君） 次に、まちかど議会カフェの充実促進についてを議題とします。

関局長より資料の説明を求めます。

○議会事務局長（関 孝憲君） 資料について、私のほうから説明させていただければと思います。

まちかど議会カフェの充実促進についての資料を御覧いただければと思います。まず、活動の趣旨でございますけれども、まちかど議会カフェは議員が町民とコーヒーやお茶を飲みながら気軽に意見交換や情報交換ができる場として開設をされてきました。開設当時でございますけれども、森町交流支援センターなどで実施してきましたけれども、毎回来られる人が限定してしまうことなどから、より多くの町民と語らうためにということで近年は食K I N G市などの場で実施をしているところでございます。いただいたご意見につきましては、行政担当に届けたり、確認をして内容によっては定例会で一般質問が行われているような状況でございます。

まちかど議会カフェ実施実績といただいた主な意見でございます。（１）令和５年７月２日の食K I N G市では、オオズワイガニが取れ過ぎて漁業被害が出ているので、支援策を考えてほしいとのご意見から、下段でございますけれども、木や草、排水に係る環境整備をしてほしいとのご意見まで、おおむね１２件のご意見を頂戴しているところでございます。

以降は太字の箇所、応答したご意見をかいつまみ、説明させていただきますけれども、（２）の令和５年９月３日、食K I N G市では学校にエアコンをつけてほしいとのご意見がございまして、９月会議で緊急質問が行われたというところと、１ページ目の最下段でございます食K I N G市は道の駅でやるほうがいいとのご意見では、２ページ目に参りますけれども、一般質問での質疑の結果、９月の食K I N G市の開催は道の駅で開催された経過がございます。

（３）の、令和５年１１月５日の食K I N G市では、最下段でございますけれども、上下水道料金の見直しをとのご意見があつて、それにつきましても１２月会議で一般質問が行われたところでございます。

４から６まで、ひとまとめにしてございますけれども、社会教育主事を配置してほしいとのご意見に対しまして、７月５日に行われました民生文教常任委員会におかれましても質問が行われ、複合施設は、公民館は行きやすい場所に、国道５号線付近が不便だということで、議会としましては特別委員会を設置しているといったところです。猫の避妊手術の助成をしてほしいというようなご意見につきましては、令和５年の１２月会議で２名の議員の方から一般質問が行われました。３ページ目になりますけれども、ホタテの採苗の

支援のご意見では、これにつきましても令和6年の9月会議で一般質問が行われたところでございます。

(7)の令和6年11月3日の食K I N G市では、1次産業を成長産業に、幼児教育からとのご意見については9月会議で一般質問を、ホタテが心配とのご意見につきましても9月会議で一般質問が行われ、総務経済の常任委員会のほうで加工場の視察を行っているところです。水道管の耐震化についてのご意見につきましては3月会議で一般質問を、女性検診を毎年にしてほしいとのご意見では12月会議で一般質問を行われております。選挙について、投票しやすい環境を整えてほしいとのご意見につきましては、12月会議で一般質問がなされているといったところでございます。

最後になりますけれども、まちかど議会カフェの今後の予定でありますけれども、令和7年8月23日、間もなくでございます。森町三業まつり、9月7日には食K I N G市、11月2日の食K I N G市を予定しているところでございます。

資料の説明については以上でございます。

○委員長（斉藤優香君） ありがとうございます。

皆さん、参加して大分森町に定着してきたのかなという気がしておりますが、これからこれを続けていくとなりますと、今までどおりでいいのか、それとももうちょっとこうしたほうがいいとかというご意見などがありましたらお聞かせいただいて、これからのまちかど議会カフェの充実を図っていききたいと思うのですけれども、いかがでしょうか。皆様のご意見をお願いします。

○委員（東 隆一君） これまちかど議会カフェの充実促進ということで、まちかどカフェをこれからやっていくという趣旨でこういうものが出てきているのだと思いますけれども、私自身は結局商売を辞めてからずっとまちかどカフェには欠かさず出ているのですけれども、結局前によく1ページ目のところに出ている交流センターなどで出向いてやっていた。それを要するにまちかどカフェみたいな、こういう集まりのところに設置すると、それだけ町民が結局相談しやすいのではないかなというような趣旨でこれまちかどカフェを食K I N G市でやるというふうにやっているのですけれども、今私はずっとここ2年ぐらい見ていると結局、では町民の方がどれだけそこのテントの中にいるかですね。

前にも委員長にお話ししたと思うのですけれども、委員長が結局主体でやっている話、委員長主体という話でもないでしょうけれども、これを促進するということになると、やっぱり委員長辺りがきちっとテントの中にいて、それでやっておかないと、ただ入り口で皆さん要するに立っている方もいるし、私も立っているのですけれども、あそこの入り口で立っていたのでは入る人も座ってどうやって話しかけるのかという部分もできないと思うのです。ですから、ある程度テントの中にいて、議員さんがいて、かといってそれで要するに相談事に、相談というか、そういう意見を言う人がいるのかどうなのかという話にもなるのですけれども、何か、どうなのでしょうかね。要は、委員長がもしも出れないというか、自分で何かやられているので、そこのところに、直接そこで要するに主体的にでき

ないということになれば、持ち回りか何かで結局、要するに何月誰が、これは提案なのですけれども、誰が要するに要はその責任者みたいになって、責任者の感覚で町民から意見を聞くとか、そういう形を取らないと、このままいくと尻つぼみになるのです。これ結局こういうふうに書いていますけれども、では私があそこのテントの中にいて聞いた限りでは、これを要するに食K I N G市でも町民がお話したという部分が果たして何人いたのかという部分が私はどうもこれ見えない部分があるのです。実際にだから、要するにその中に来て話ししているのかどうなのかというのは、私としてはちょっと、あそこにずっといる限り何か疑問があるのです。ですから、何かやり方として考えていくとかなんとかという方法を探っていくと、また尻つぼみになって、だんだん要するに相談する方も来ないし、結局いろんなここを見ればズワイガニが多く取れすぎて大変なのだという部分は、これというのは果たしてその食K I N G市で話しする、議員に言う話にはなるのでしょうか、何か違うところで、要するに要は議員の議会のポストだとか、要するに町のほうの相談室だとか、そういう部分に投稿したほうがいいような話、何かちょっとそここのところ、ずれずれなのかななんて思いつつ、思うのですけれども、委員長、ちょっとお話をいただければ。

○委員長（斉藤優香君） このまちかど議会カフェの趣旨としまして、気軽に意見交換や情報交換ができる場として開設をしております。何人集めなければならないとか、たくさんの方が来てもらわなければならないということでもないとは思ってまして、皆さんに考えて、今東委員から提案していただいた持ち回りで責任者を置くとかというのは皆さんと一緒にちょっと考えていただきたいとは思っているのですけれども、まずそういうことで議員独自の自主性に任せて営んでいる会とは思っております。だから、誰が出席とかというのを特に取ってはいなく、参加できる方、町民とこういう意見を聞きたい方、よろしくお願いしますという形で毎回行っております。なので、その持ち回りで責任者を置くという意見も出ましたので、その辺りほかの議員の方、どういう意見を持たれているかというのをもしよろしければお聞かせできればと思います。いかがでしょうか。

○委員（野口周治君） 例えば、まず実績ですけれども、開いている、そして来た人が多い、少ないというのはあるのですけれども、毎回これだけたくさんの項目の声がありましたよというのが私たちの手の中にある。これは、声を聞いて話をしたという実績そのものではないかと私は考えます。その中身を評価するのではなくて、こういうところがなければ、ほかのやり方でこういうコミュニケーションを取る方法があるだろうか。それがあれば、どちらがいいだろうか。両方やるのだろうかと考えるのが手順ではないかと考えます。

私は、さらに声があったことを踏まえて一般質問につなげてみたりという実際に議会の、または議員の活動の中で役に立っていることもある。それは、この中に事実として書かれていることですから、それが多いか少いかは別として機能はしているというふうに考えていいのではないかと考えます。

それから、3つ目ですけれども、委員長がですけれども、私も委員長と同じで出れる人

がなるだけ出てそういうコミュニケーション、言ってみれば個々の議員が活動するわけですから、その議員が町民と触れ合うチャンスをつくっているのです、そこに議員は喜んで出てくる。私も可能な限り出ていますけれども、皆さん同じだと思います。そこで話をする場があって、自分が時間が取れば喜んで出ていくし、話をする。誰と話をしたいかは向こうによるし、ただ通っていく人に、例えば私はお茶でも飲んでいきませんかと声をかけて、ああ、いいのと入ってくださる方もいらっしゃる。話をしてみたら、遠くから来てもらったり、いろいろするのですけれども、そういう呼び込みも含めて例えば私は外に立っている。それは、どうやって来場者にアクセスするかもいろんな議員がそれぞれが考えて工夫することでよいのではないかと。委員長のポジションについては、やはり全体の責任者ですから、可能な限りそのところに来て、可能な限り中にいてもらえばいいのですけれども、かといってほかを放り出してまで必ずずっと張りつけというほどのことではないのではないかと。大人ですから、ほかの議員で補い合いながら、みんなで話をするチャンスを共有する。例えば誰かが話をしていたら、おもしろそうな感じだったり知っている人だったら、一緒に座って話をするということもこの間行われているし、これはこれでよいのではないかと感じます。

以上です。

○委員（東 隆一君） ですから、私が言うのは、要するに委員長が必ずここにいれとかなんとかという話ではなくて、委員長もいろいろ仕事があるので、忙しいのだったら、逆にそういう形の、要するに要はこの会議の部分ではこの人が責任者でやってくださいということになると、要するに自分がやろうとしているところで、結局それは専属で仕事ができるでしょうというふうに、無理くりこっちの要するにまちかどカフェに出なくても。そういうことを言っているのです。

○委員（野口周治君） 私も提案があったということは理解しています。私は、こう考えるとただで、別に反論しているのではないのです。そこは、ご理解いただきたい。

○委員（東 隆一君） 分かりました。

それと、もう一つ、三業まつりなのですけれども、これには出るということで決まっていたのだと思うのですけれども、これから先のことを考えて、結局三業まつりというのはどちらかというと物を売る場という位置づけだと思うのです。そうしたときに、まちかどカフェをやって、要するに要は町民の方がそこに来て意見を言えるだけの時間的余裕があるのかということです。こういう暑いときに物を買いに来ても、すぐ帰ってしまうわけですから、それにまちかどカフェを無理くりそこに入れてやるというのは、いかがなものかと私は思っていたのです。そのところは、ここでやるという決まりを前にやっていたわけですから、それに対しては私はこの次のときにここは考えなければいけないのではないのですかということを要するにお話ししているのですけれども、そのところはいかがでしょうか。

○委員長（斉藤優香君） 三業まつりも食K I N G市も同じように、お買物に来る方のた

めのイベントにはなと思うのです。食K I N G市だけに限るといっているのであれば、皆さんの意見が、それも手だと思います。ただ、お祭りがある中で最近商工労働観光課のほうからも議会さん出てもらえますかみたいなぐらいの声かけもいただいているので、1つのブースとして成り立ってきているのかなと思いますので、そこで今回はいないのかと思われるのも何なので、私としてはお時間のある議員の方いらっしゃったら、ゼロになってしまおうと困るのですけれども、来られる方いましたら、午前中ちょっとお時間つくって町民とお話ししませんかぐらいの感じなのですけれども、ほかの方で何か意見ある方いらっしゃいましたらお願いします。

○委員（千葉圭一君） 私は、これが当たり前だという感覚で議員活動というか、議員の中で参加してきた経緯があります。その中で、三業まつりも食K I N G市もそういうイベントに来る人数だって、そのとき、そのときによって違うわけですね。だから、この出てくるアンケートの数も少なかったり多かったり、それはもう当たり前だと思っています。ただ、その来た町民もしくは町外から来た方々と触れ合って話ができる機会を逆に私たちがいただけているというふうに捉えれば、これはやっぱり継続すべきだし、自分はそういうふうに参加、これからも参加していきたいなというふうに思っています。

これは、私の意見ですけれども、もう一つ意見があって、このそれぞれが各本会議で一般質問をしているという部分なのですけれども、これは誰がとかというふうに捉えた場合、その広報広聴委員会でいただいたアンケートをきちんと精査して総務経済とか民生文教に分けて、それぞれでちゃんと持っていく、個々の議員ではなくて。そういったシステムも構築できれば、たくさん意見が出てくるのであれば、そういうふうにしたほうがいいのではないかなって。ここに出ている中で、何か1つだけ一般質問しました。では、これはどうなっているのだといったら、誰も答えられないのではなくて、それぞれの委員会でちゃんと精査して、これはこうなので、こういうふうにしましたって意見がちゃんと町民に伝わるような流れでできればいいのかなというのが私の意見です。

○委員（東 隆一君） ですから、これ要するにまちかど議会カフェの充実促進ということを行っているわけですから、これ自体をもっと要するに人が来てもらうような方法を考えるということの1つの方法として、千葉議員が今言ったのもそうなのですけれども、これ自体を議会だよりにこういう形を要するに広報で取っていますよと。こういう意見もありました、こういうものを抜粋して、こういうものやって、こういうのを言ってくれると議会としては取り上げてくれるのだというようなことになれば、当然要するにそこに集まる人も増えてくるだろうし、そういったことをしたほうがよろしいのではないですかということですよ。そういうことはいかがですか。ただやった感だけではなくてね。

○委員長（斉藤優香君） 議会だよりに毎回というか、意見が集まった時点で掲載しております。そして、その中で一般質問したものとかという分類も分けて、あと総務経済に関わる産業とか、教育とかというカテゴリーに分けて町民により見やすく、どんな意見がいただいたかというのを掲載しております、お便りに。

○委員（東 隆一君） ですけども、来ている人たちはほとんど一緒、同じ人なのです。私が見る限り、ほとんど同じ人が来ていますよということです。ですから、ほかのもっとそれに要するにプラスアルファの人たちを呼ばないと、もっと要するに町民の声というのを議会で収集できないのではないですかということを言っているのです。実際に、あのテントにいれば分かりますよ。入ってきている人たちがどういう顔ぶれなのか。そこは、委員長、どうですか。委員長、要するに自分のところ行っていれば、そのところ見ていないと思いますよ。

○委員長（斉藤優香君） 見えますよ、私もテントに座って見えていますけど……

○委員（東 隆一君） だから、見えますと。そういうふうに言ってしまうと、どうしようもないんですけども……

○委員長（斉藤優香君） 見えますが、同じ方がいらしてもいいですし、たまには新規の方、ましてや町外の方とかも座ってあそこでゆっくり休んで、この町いいねとかという意見もいただいていますし、こういう場所もいいねというほかの町外からの方もいらっしゃいますし、だんだんいろいろな方が座りやすくなるのではないかなって私は思うのですけれども、もう何かそういう意見を持って来られる方を増やすいい案とかがありましたら、そういう意見はこの場で聞きたいなとは思っておりますので、そういう意見の募れるような場にするにはどうしたらいいかというところ、もし意見がございましたらお願いします。

○委員（山田 誠君） 私は今まで聞いていて、千葉議員の言っている出たものの各関係所管で再度詳細に対応していくということ、これは大事なことでないかなと。

それから、東議員が言っているようにこの意見を述べる方々というのは、あそこに来る方々は大体同じような人間が来ていると。これは、私も同じだと思っています。それで、食K I N G市だとか三業まつりに来る方々が確かに物を買いに来るといって、いろんなこともあるけれども、議会カフェに出たいというような魅力のある議会カフェにすべきだと。例として来た方々の中から例えば抽せんで景品をあげますよとか、何かいろんなもので誘い取るとか、そういうものをしていったほうがいいかなと、そういうふうに思っています。これは、私は前からそういうような感じで、やっぱりここに各議会で一般質問をしている方々がいますけれども、やっぱり所管でもう少し内容的に詳しくその方々と膝を交えて話をすべきではないかなと。あそこでわあわあやっていて、2分か3分で真意が把握できるかと言ったら、できないと思うのです。もう少しきちとした対応、私はできれば、ある時期にこの意見を出した方々と再度打合せしてもいいのではないかなと、意見交換してもいいのではないかなとは思っています。その辺、今後この議会カフェを達成するためには、今言ったようなこともろもろを解決していったほうが長続きするのではなかろうかなと思います。

以上です。

○委員長（斉藤優香君） あとほかにご意見ある方。

○委員（河野文彦君） 確かに来ている人は、顔ぶれはマンネリ化しているかなと。でも、

たまに見たことない人がぱっと来ているなというのもあると思います。ただ、いつも来ている人は正直言ってこの議会カフェの場があるから、ぜひ聞いてほしいではなくて、何となくお茶を飲んで本当におしゃべり、多分毎回来ている人は議員何人も電話番号を知っていて、おい、こらって電話をかけられるような人たちばかりです、議員に対して。だから、そういう人たちにとっては、こういう場所というのはあってもなくても利便性は変わらないと思うのだけれども、やっぱりゼロではない、多少でもいらっしゃる、ふだん議員なんかはどうやって声かけたらいいのだろうという方がいるうちは、僕は続けていったほうがいいのではないかなと。

こういう場って路線バスと一緒に、路線バスってお客さんがいなくても毎日必ず同じ決められた時刻に走っているでしょう。だから、用事があるときだけぼんと乗れる状態があるから安心、安全につながるわけであって、それと一緒にこの回数が多いか少ないかは別な議論だけれども、食K I N Gの場に行けば議員と話ができる、何か話を聞いてもらえる場があるという場所を絶えず用意しておくということがやっぱり今後の来るお客さんというか、町民の数の増にもつながるのではない。やっぱり継続は力だよ。ただ、かといって、では毎回毎回ゼロなのになにずっとやり続ける。僕たちだけではなくて、事務局にも負担かかっていますから、そこはどこかで、そこは僕いつも言う引き際の美学だと思います。それは、その時点で考えればいいことだと思いますけれども、今の時点ではやっぱり継続は力ではないかなと。そっちの評価のほうが僕は高いかなと思って見ていました。

ただ、あとは回数的なものとか、そこは皆さんで議論すればいいのではないかなと。確かに今の状態だと年4回、5回、食K I N G 4回に三業まつり4回か。毎回、年4回、それぐらいだったら続けてもいいのかな。あまりにも少なかったら、例えば半分にしてみるとか、いずれにしても開催されますよというのが町民の目に触れるように、議会だよりなり食K I N Gのチラシなりに必ず入れてもらうようにしてもらえればいいのではないかなと思っていました。

○委員長（斉藤優香君） 定着化しているので、食K I N Gのポスターにも入れていただいたりしている取組も始まっていますので、定着してきたかなとは思いますが、ほかに意見のある方いらっしゃいましたら。

○議長（木村俊広君） もともと議会カフェは、こちらから出向いて行って、会場を設けてやっていたのですが、本当に特定の人だけで、もう意見も煮詰まってしまってどうしようもないなということで、不特定多数の人が集まる場所にこっちから出向いて行ってやるのがいいのではないかとということで、実際やった結果いろんな意見を聴取することができていると。改まってやるという部分は、どこかの団体とまた別にやるのですが、こういうところに来て思いつきで本当つぶやいていく、そういうことで十分だと思うのです。それが町民と議会の信頼関係という部分にもやっぱりつながっていくのかなという気もしておりますし、今後も可能な限り継続していくべきだなと思っています。

なかなかやっぱり一般町民、議会に対してなかなか接する場面もないし、意見を言う場

面もないということで貴重だと思っていますので、堅苦しく考えるのではなくて、議員も時間のある方という形でそういう場をどんどんつくるべきだなんて思っています。そんな押しつけみたいな形でやるのではなくて、向こうから来てくれて、何か言いたいことあったら言ってもらえる、それで十分だと思うので、もしそれで不足だなというふうに思うのであれば、今まで意見としていただいたものに対して回答できるものがあれば、ペーパーを少し支度するとか、そういうこともありなのかなと思うのですけれども、あまり堅くと逆に近寄りがたくなってしまって誰も来ないという結果になってしまうので、あまりそうはさせたくないなという感じで捉えていました。今後も私としては、今までどおり継続できればいいのではないかなと思っていました。

以上です。

○委員長（斉藤優香君） ほかに意見のある方いらっしゃいますか。

○委員（佐々木 修君） 私もこれまでやっていて、何かこっちから期待をして物を求めているような声もあるような部分も聞こえたものもあるけれども、そうでなくてやっぱりちょっと時間あったら寄って雑談でもしてもらおう程度でも私は意義あるのではないかなと思っているのです、ふだん会うことのない議員とお茶やジュースを飲んで、その程度でも意義はあると思う。常に何か言ってもらいたくて、こっちから何か求めているような、期待を含めて待機しているという、そんなものでなくていいのではないかなと、こう思っているのです。やっぱりもっともっと町民との距離を縮める、親しみを持って接する、そういう場があればそれで、その中からやっぱり考えていることの1つも2つでも出てくれば、それはそれで意義あることだなと、こう思っています。

以上です。

○委員長（斉藤優香君） あと意見ある方いらっしゃいますか。いかがですか。

今までいただいた意見をまとめますと、取りあえずこのまま継続はしていくということでは皆さん一致はしているのかなと思います。この先いただいた意見をどう割り振るかということも含め、あともう少しいろんな人に来ていただくにはどうしたらいいかということでは常に考えながら、この議会カフェというのを食KING市や取りあえずは三業まつりもやってみて、また改善しながらいきたいなと思うのですけれども、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○委員（千葉圭一君） 最初に私がこの議会カフェに出たときに、このアンケートをたくさん集めろって、聞き取れって、それが一生懸命だから持って歩いて、一生懸命とにかくアンケートを取るのだ、アンケートを取ることがまちかど議会カフェという認識で当初いたものですから、そうやって考えると、だんだん人が減ればアンケートの数が少なくなって、これだったら意味がないのではないかという考え方も確かにあるのですけれども、ここ直近では特に無理にアンケートを取れとか、そういうことがなくなったものですから、ほかの通りすがりの町民の方、知らない人でもそうなのですから、気軽に休めて、そのときに話ができる。あと、声をかけて挨拶をするという、そういったちょっとした町民

との間合いがちょっと詰まるというか、近くなる。逆に挨拶、声かけしなかったら、あいつは挨拶しなかったって後から人を通して私に入るぐらいですから、だから最近知らない人でも声をかけるようにはしているのですけれども、そういったちょっとした声かけだけでも議会と町民との間が縮まるのだなというのがだんだん分かりかけてきたというので、やっぱり続けていくべきだというふうに私は考えております。

○委員長（斉藤優香君）　ありがとうございます。

本当に事務局をはじめ、皆様のご協力があったこの議会カフェになります。始めた当初から形が決まっているわけではなく、もう勢いで始めたようなところがありますので、すごい不備も問題点もあるかと思いますが、これを継続するということは皆様のお気持ちで分かりましたので、継続します。その中で、またご意見、いろんなことがありましたら、その都度皆さんと話し合っ解決していきたいと思っておりますので、今後どうぞよろしくお願い致します。

では、なければ、まちかど議会カフェの充実促進についてを終わらせていただきます。

◎その他

○委員長（斉藤優香君）　次に、3、その他に入ります。

皆さんから何かございますでしょうか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（斉藤優香君）　では、事務局からは。

○議会事務局長（関　孝憲君）　ごめんなさい。広報広聴常任委員会とは、ちょっと外れるのですけれども、一般質問の締め切りとか通知文、遅れております。今日、明日中には整理した上で郵送したく思っているのですけれども、一般質問の締め切り、意見書の締め切りにつきましては8月20日、2週間後を予定しております。ただ、さかのぼりで考えますと一般質問の締め切り日は本会議が再開される10日前には設定されるような形、去年から比べると2日間ばかり早いのですけれども、1日スタートとかということを考えると、やっぱり20日に設定せざるを得ないというところがありますので、お願いしたいと思えます。

先日開催されました全員協議会の中で、国保病院の関係あったと思うのですけれども、そちらの日程も20日の午後から、午後1時からを予定しているところでございます。全員協議会ですね。13時です。20日の13時からです。この時間のない中、ちょっと急な予定、委員会の開催になるのですけれども、よろしく。

（何事か言う者あり）

○議会事務局長（関　孝憲君）　20日しか取れないような状況であったと思います。前後取れなかったのです。

（「何時から」の声あり）

○議会事務局長（関　孝憲君）　1時です。今週中には、この辺を整理した開催の案内を

皆さんにお知らせしたいと思いますので、取りあえずごめんなさい。口頭による説明になります。よろしくお願いいたします。

○委員長（斉藤優香君） あとは大丈夫ですか。

（「なし」の声多数あり）

◎閉会の宣告

○委員長（斉藤優香君） それでは、皆さん連日で大変暑い中でございましたが、広報広聴委員会、これで終わらせていただきます。

皆さん、お疲れさまでした。ありがとうございました。

閉会 午前11時55分